

「秋日」(返照閭巷に入り) 耿滄

「秋の夕日の村里の」

AKY訳

秋の夕日の村里の

古道こみちに行き交う人もなく

侘しさ語る同行(とも)もなし

黍(きび)の葉だけがさやさと

(原詩)

「秋日」

耿滄

返照入閭巷

憂来誰共語

古道少人行

秋風動禾黍

(読下し文)

「秋日(しゅうじつ)」

耿滄

返照閭巷(りようこう)に入り

憂い来たるも誰と共に語らん

古道人の行くこと少(まれ)に

秋風禾黍(かしょ)を動かす

「夕日がひとけのない村に照り返し、わびしい思いがこみ上げてくるが、村の小路には、行きかう人もなく、それを語る相手もない。ただ、キビの葉ばかりが秋風に揺れさやさやと音を立てている。」

耿漳(七三四?)、山西省の人、唐の肅宗の時代、大唐十才子の一人といわれています。

返照、照り返しまたは夕日の光。

閭巷、閭は、二十五戸を単位とする村。巷は、その中の小路。閭巷で村里。

禾黍、禾は、イネ、黍は、キビ。また禾は、穀物の総称。

日本の村では、あまり、キビの穂が揺れるという風景は見られません。通常は稲でしょう。しかし、私の感覚では、「イネの穂が揺れている」では、豊年満作を連想させてしまつて、あまり、わびしい感じができません。なじみはないけれど、「ここ」では、キビとしました。松下さんは、禾黍を唐黍と訳していますが、この場合、唐黍はとうもろこしではなく、コーリヤンのことであると注釈を付けています。

佐藤春夫さんは、素直に「禾と黍ゆれ」(いねときびゆれ)としています。

【参考】他の方々の訳詩】

「誰ト語ランコノ愁イ」

松下緑訳

夕日ガ村ヲ照ラス時

誰ト語ランコノ愁イ

旧街道はヒトケナク

唐黍(とうきび)ノ葉ニ風ガ鳴ル

佐藤春夫訳

村ざとに夕日照りそひ

わびしさを誰にか云はむ

古き道行く人まれに

秋風に禾と黍ゆれ

佐藤春夫さんの訳は、上品で素敵です。他にも多くの訳をしておられますが、どれもすばらしい訳です。

会津弥一さんは、漢詩を短歌として訳すという試みをしていて、歌集「鹿鳴集」の中で九首を「印象」という章にまとめられています。が、その中にこの詩の訳も含まれています。また、松尾芭蕉さんもこの詩を典故として二句を詠んでいます。

会津弥一訳

いりひさす

きびのうらはをひるがえし

かぜこそわたれゆくひともし

松尾芭蕉

あかあかと 日は難面(つれなくも) 秋の風

此の道や 行人(ゆくひと)なしに 秋の暮れ